フエ情報帳　1999

フエの建築を見る

フエの街並み

■近代化の影響

現在ベトナムで発生している急速な近代化の波がフエにも押し寄せている。その影響は建築の形態や人々の生活様式に大きな変化を与えている。特に住宅及び商店建築は、短期間での進化が起こり様々な形態が混在しており、地区毎の発展速度に応じて登場、分布し、地区の性格を規定している。このような状況の中で今後も近代化が進行することを念頭に入れ、失われてはならないフエの魅力・特色とは何かを考えるために、ここでは建築を手がかりとしてフエの空間構成や生活の様子を見ていく。

■フエの建築類型

現在フエにおいては、近代化による生活様式の変化や高密化に起因する高層化や増築などの変化が著しいが、大きくは以下の8類型に分類することができる。

A:伝統的様式のガーデンハウス

間口が10　以上あり前庭も広いゆとりのある構成。街路と敷地の間に生け垣を設けることが多く、庭にも樹木を植えている。

ガーデンハウス

B:伝統的様式の高密度住居専用建築

間口は5～10　と比較的狭い。前庭は敷地の形状などの地区の特徴により広くとる場合や全くないなど様々だが、ある場合でも増築によって狭くなっている、あるいは無くなっているケースが多い。生け垣や塀などで街路とのしきりを作っているものもある。

伝統的様式の高密住居専用建築

C:都市型住居専用建築

近年登場したと思われる新しい様式。まだその数は多くなく部分的に見られる程度。間口は様々で、多くは2階部分にテラスを持つ。多くの場合街路との境に高い塀を設け、立派な門がある。

都市型住居専用建築

D:伝統的様式の住商併用建築

Bを基本型として商業の用途が付加されているタイプ。前庭に商業用途の増築をするタイプや、前庭に屋根を設けて日陰をつくりテラスの様にするタイプ、既存の住棟を一部改装して店舗にする場合などがある。

伝統的様式の住商併用建築

E:都市型住商併用建築

ショップハウスと呼ばれるタイプ。多くは間口が狭く敷地いっぱいにボリュームを配置するため奥に細長い建築となっている。2階にはテラスかベランダが設けられている。既に3層、4層のものもあらわれており、今後もさらに高層化したタイプへと変化していく可能性がある。

都市型住商併用建築

F:農地付き住宅

敷地にゆとりがあり、その多くを農地として利用しているタイプ。

農地付き住宅

G:長屋住宅

多くは10軒ほどの長屋で、一軒一軒は間口が狭い奥に細長い構成になっている。住居専用タイプと住商併用タイプがあり、住居専用タイプの方は前が設けられている。テラスを

長屋住宅

H:運河沿いのスク オッタ

京城内の運河の縁や京城の周囲をめぐる堀沿いに張り付く建築。多くは木造で、敷地の制約から奥行きが狭く、水辺に張り出すようにして建設されている。

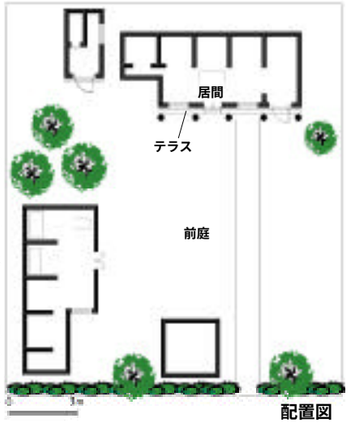
運河沿いのスク オッタ

■フエの建築がつくる街路景観及び生活の様子

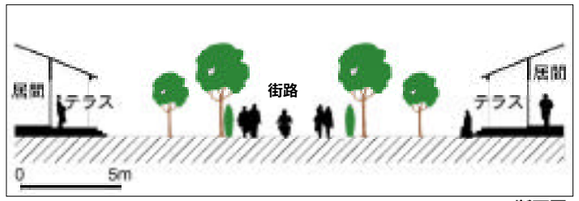
フエでは敷地内の空間構成、特に庭の有無とその配置が、各地区の街路の景観の変化や人々の生活様式の違いと深く結びついている。ここではそれらがどのような関係を持っているかを見てみる。

A:伝統的様式のガーデンハウス

生け垣と庭に植えられた樹木のおかげで緑の多い閑静な街路となる。古い家は前庭に植えられる樹木の数が多くそのため街路が薄暗くなっている場所もある。住民が日中を過ごすことの多いテラスが広い前庭で街路と隔てられているために、敷地内で生活する人の活動の様子は街路ではあまり感じられない。逆に街路における通過交通などの騒音が住宅内にとどかず、静かな住環境といえる。



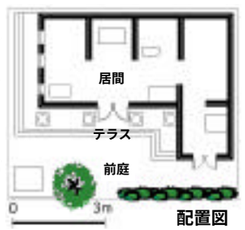
配置図



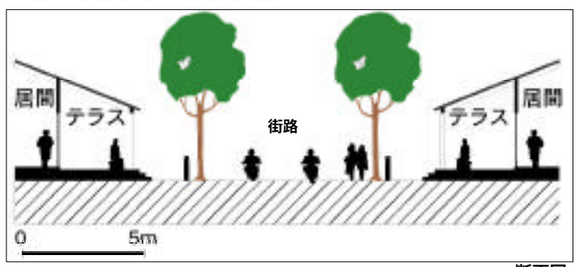
断面図

B:伝統的様式の高密度住居専用建築

前庭がある場合でもガーデンハウスと比べて狭いため、テラスと街路との距離が近い。そのため敷地内における住民の生活の様子が街路から感じることが出来る。テラスが直接街路に接し（前庭が無く）街路の幅員も狭い場所もあり、そのようなところでは家の内部の様子まで見ることができかなり濃厚な生活臭が感じられる。街路を歩いていると声をかけられることもある。



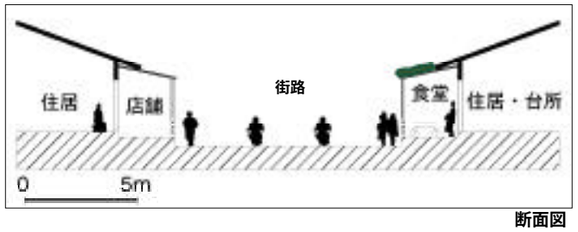
配置図



断面図

D:伝統的様式の住商併用建築

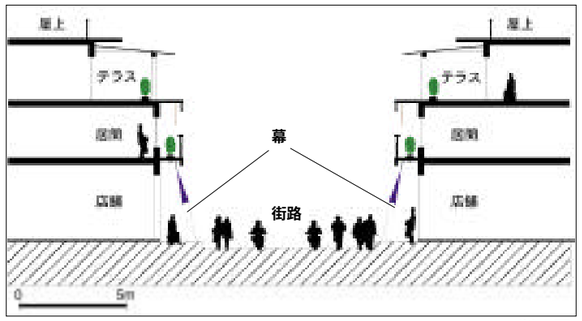
住宅前の空間は街路にはみ出すような形で商業用途に使われる。その使い方には、庇をつけて食堂にする、増築をして売店を作る、パラソルや樹木の木陰を利用して露天を営むなど様々なタイプがあるため、景観が非常に変化に富んだものとなっている。また店舗に客がいなくても、その奥に常に住民の姿が見えるため街路空間が非常に活気のあるものとなっている。



断面図

E:都市型住商併用建築

京城西側のドンバ市場へと続く道は道の両側に3層のショップハウスが建っているため囲まれ感のある街路空間となっている。2、3階部分のテラスは植木で飾られており景観的に好ましいものになっている。また1階部分の店舗の前には日差しをさけるための幕が垂らされており、太陽の動きにあわせて上げ下げするといったような生活の工夫も見られる。

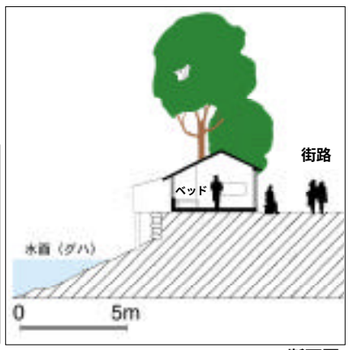


断面図

H:運河沿いのスク オッタ

運河沿いの木陰を利用する、屋内の水辺側に広いベッドスペースを確保するなど、狭い敷地を有効に利用し快適な空間を作るための工夫が見られる。

配置図



断面図

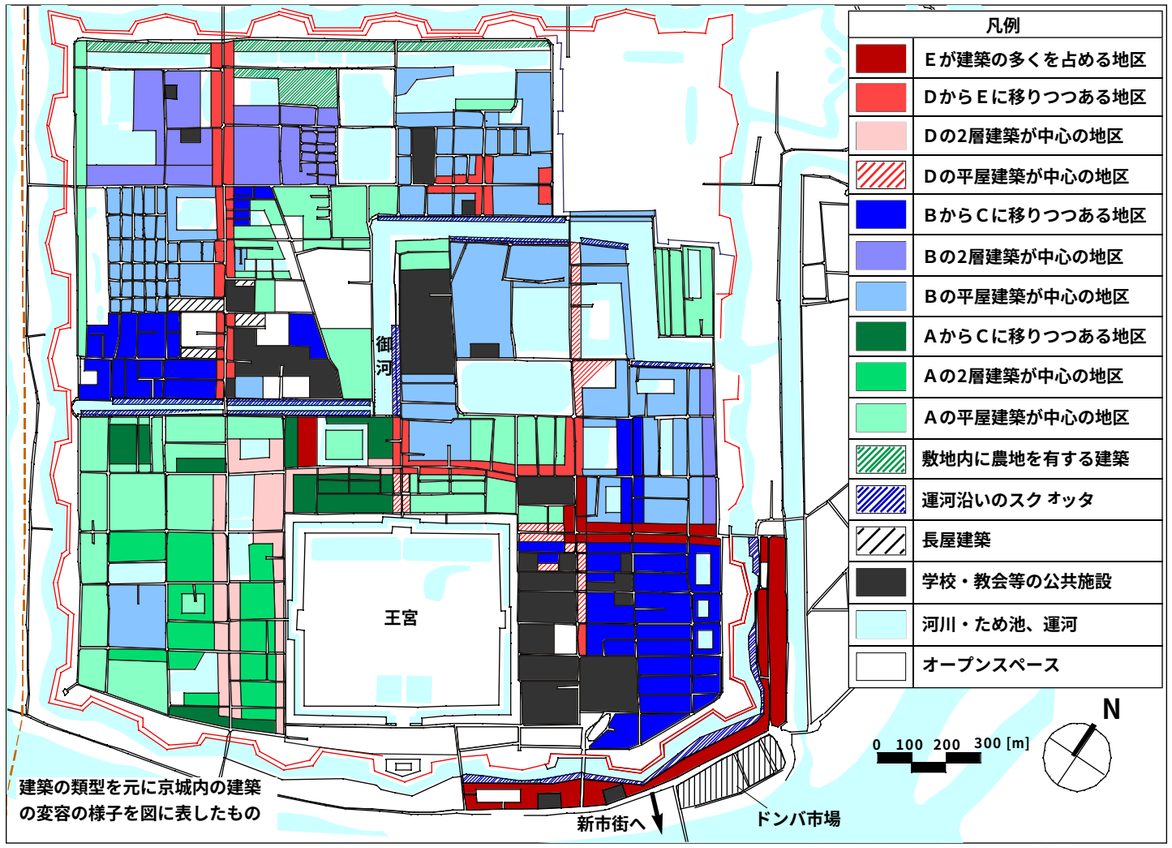


図1：現況の建築類型による京城内の空間構成

■フエの空間構成の変容

フエでは前述のような建築が集まっていくつかの特徴のある地区を構成している。（図1）ここではこれらの地区による京城内の空間構成を1920年の京城内のゾーニングと比較してみる。

執政都市であったグエン朝時代には京城内に計画されたゾーニングがあり、その性格は10の地区毎、95の坊毎に分けられていた。このゾーニングには風水の影響が濃い。例えば京城内の御河を挟んで皇城側が政治などの場、後が生活の場とする前陽陰後の思想があり、1920年当時のグエン朝時代のゾーニング（図2）を見ると、農地・住宅地・役所などがそれぞれまとまって配置されている。

現況の空間構成と1920年のゾーニングを比較すると、まず大きな変化として目に付くのが軸の発生である。この軸は、京城外の市街地の発展に起因する通過交通の発生とそれに伴う商業の集積によるものである。また住宅地も大幅に増加し、商業の発生と併せて執政都市から生活中心都市へと変化しているといえる。

街路は基本的には1920年当時のものを踏襲しているが部分的にかなり細分化されている。また大規模だったと推測される役所があった場所の多くは現在では公共施設に転用されている。

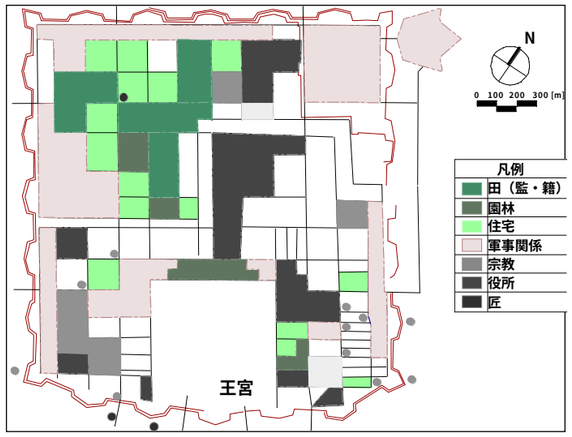


図2：1920年当時の京城内のゾーニング

■まとめ

フエの建築はそこに住む人々の生活や、その生活も含めた都市の風景と深く結びついている。また、この都市が建設された当初の計画も現在の各地区の特色となって表れており、これらが総合してフエの固有性・魅力へとつながっている。